

変わってきたのか 今どきの子ども達

司会 田代 和美（お茶の水女子大学大）
出席者

A	東京	幼稚園	保育経験	十七年
B	千葉	〃	〃	七年
C	東京	〃	〃	四年
D	東京	〃	〃	五年
E	神奈川	〃	〃	二年
F	東京	〃	〃	二十五年
G	編集部			

（発言順）

◇今どきの子ども達

——今日は、幼稚園の現場経験二年から二十五年という新人、ベテランの先生方六人にお集まりいただき、今どきの子ども達をどうとらえて、どう対応しているか一人一人を大切にするといいっても、どの様な形でしていったらいいのかということなどについて、皆さんに

たくさんお話していただけたらと思っています。ご自分の保育のこと、子どものことなど、話し合いながら考えていきたいと思えます。簡単に結論の得るような問題でもないと思いますので、いろいろ話が聞けたらいいな、という位の心づもりでお話し下さい。ではA先生から口火を切っていただきましょうか。

A 以前と比べるとすぐ子どもが変わってきていると感じています。それが私の幼稚園だけの特殊な状況なのか、それとも子ども全体がそういう傾向で動いていることの表れなのか。私自身、ずっと同じ幼稚園にしかないので分からないことでもあるのですが、同じ幼稚園だから、この変化が分かる部分もあると思っています。今の子ども達は一人一人が気持ちの中に、何か重たいものをかかえている、という感じが強くありません。本当にくっつくなく遊んでいると思われる子は一クラスに五、六人しかいない。一見、友だちとも楽しげに関わり合いながら生活をしているように見えても、そういう子ども、とても先生との結びつきを求めている。"気持ちをこっちに向けてよ"という信

号をそここで出しているように私には感じられるのです。ですから、保育の関わりでも、遊びの援助というよりは、その子の気持ちを受け止めるという援助の仕方にまず重きをおいてしまうことが多いですね。子どもが信号を出していることを私が感じてしまうから、援助の仕方も当然変わってくる訳です。最近は、入園前にプレ教育を受けてくる子どもも多く、その時代には本当に大事にしてほしかったと私達が思っている部分ではなく、自分の事は自分でできるようになるとか、ある技能が習得できるようになる、等の方向づけをされた結果がこういう形に表れているのかしらとも思いますが、またそれだけでなく、世の中のいろいろな変化の状況が今の子ども達の気持ちの中に表れているのでは、という思いもあります。

——似た様な環境の幼稚園としてB先生、いかがでしょうか。

B 私は昨年異動してきたばかりということもあり、やはり特殊性は感じます。一年間受け持った印象では、前の幼稚園(公立)でも一クラス三〇人位で人数は変

わらないのですが、前の地域で何人かいたような感じの子がこちらにはもっとたくさんいて、お母さん達がいるいろブレ教育させている。入園後も続けている子も多いです。ストレートに表現が出てこないとか、とりかかりでもっととびついてもいいのにと、いう所ととびつかないとか、そういう所がちがうと思う。行動がストップしてしまふ。具体的にはオニゴッコでもオニになるとすぐ泣く。失敗と思うみたい。失敗したらどうしよう”と考えるのかしら。私のクラスは四歳から新入園の子ばかりなので、三歳までに準備して気合を入れ込んで入ってくる子が多く、近所の児童館の幼児教室を経験したぐらいでまあ初めての集団生活として入園してくる公立の園とはちがうなという印象がありました。それと何かバランスの悪さを感じます。こちがでるのにこれができない、一体どうなっているのだろうか。

A 先程ストップするという話ができましたが…？

B ○○しちゃいけないかな、と先にブレーキをかける。何かあると体が固まって動けなくなる状態。

—他の幼稚園ではどうなのでしょうか。

C 一つはお母さんの印象が変わってきたように感じます。年齢から言うと三〇歳前後、ちょっとした普通の言葉のやりとりの中で、気持ちを伝えることがあまりない。子どももそういう大人の生活をものに受けている。友達に自分の気持ちをストレートに出さずに、他の子を使ってサインを送ったりするか。今の社会の中でお母さん同士が心を開いて育児の事やいろんな事を話せる仲間がいないということも、直接子どもにひびいている。例えば四人の仲間で何となくいつも一人はずされている状態があったりすると、お母さんまで巻き込んで大騒動になる。お母さん同士の感情のもつれが子ども人間関係に反映して、子ども達の中がぎくしゃくして、逆に”友達とケンカをしないために私は一人にいる”という表現がでてきてしまったり…。ざっくりばらんに親同士がぐちゃぐちゃと話をしていたのが影をひそめ、そういう大人の社会の変化が子どもに影響しているように思います。四歳位の子ってよくケンカのような事”今、○ちゃんと遊びたくない”と

か、いろいろありますよね。そうやって気持ちを出していく中で、言っではいけないとか、ショックだったとか、いろんな経験をしていく訳ですが、その経験をしていく前にお母さんからブレーキがかかる。仲良くしなさい、仲間はずればダメ、入れてあげなさい、そんな言葉で情報として子どもに提供する。そうすると子どもは大人の見えていない所でこっそりとするようになる。去年受け持ったクラスで、心にグサッとささるような一言を平気で通りすがりにポロツという子がいたんです。「○ちゃんの洋服、ヘンなの！」そういう形ででてしまう。遊び方とか子ども同士のぶつかり合いではなく、通りすがりのうつぶん晴らしのような。お母さんのおつき合いの姿も似たような所はあるのではと思いますね。最近、私の幼稚園ではお母さん方を保育の中に巻き込んで、参観ではなく保育参加をしてもらっています。お母さん同士の交流を通して、お母さんの関係が変わり、気持ちもプラス指向というか良い方向に考えて、気持ちをつないでいきたいと思っています。この二年間で、子ども達の関係も少しずつ変

わってきたように感じている所です。

◇子どもへの対応

——子どもの話にもどりますが、今のような通りすがりに一言捨てぜりふのようなことがあった時、C先生はどうしていますか？

C 私の気持ちとしては受け入れがたいイヤな事なので「そういう言い方は先生嫌いだな」と素直にその子に向かって私の気持ちをその都度伝えます。「そんなこと言われたら、あなただってイヤでしょ」とおきかえで言うのは大人の発想で、四歳には通じないですね。

A その時子どもはどう反応しますか？

C 顔色が変わりますね。まずかったかな、というような。ある程度関係ができているから、私にそう言われる事で、「しまった」と思う所があるみたいですね。

A 私の幼稚園でも、同じ状況があると思います。お母さんは子どもに大人なりの考えで自分の子どものあるべき姿を伝えて育ててきたという状況も同じです。でもその子が幼稚園に入ってきたときに、最初は、私達

教師のことを親と同じ存在と受けとめ、お母さんに対していたのと同じ行動をとると思うのですが、その時に、教師が親と同じ態度をとらなかつたら…、そうする事のみ重ねて、「ここでは、今まで家でしてきたこととちがう行動様式をとってもいいのではないか」と思うようになると思う。例えばケンカについても、自我の発達の中で、自分を素直に表現するという事はとりあえず一番大事な事で、その結果、相手にどう影響し、相手がどう反応し、それが自分に影響がきて、という相互作用の中から本当の思いやりや社会的行動を身につけていくものと思うから、ケンカはない方がいいけど、あつてはいけないものではないと考える。その時、何でこの子がそうせざるを得なかったのだろうと、とりあえず考えるから、社会人として望ましい姿勢としてケンカをしない方がいいよ、という対応の仕方とは違ってくると思う。こういう気持ちの向け方というのは、子どもは敏感に感じます。「この人、私に対してお母さんと同じ対応の仕方をしてくれる」と、きつと思うようになって、その積み重ねが、少なくと

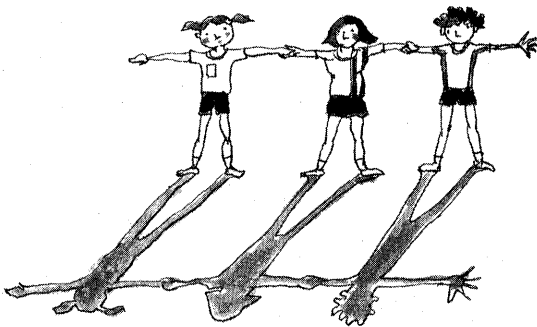
も幼稚園の中では「もうちょっと素直に自分を出してもいいんじゃないかな」と思えるようになるような気がしています。今はお母さんの力って強いから、お母さんを巻き込む事も大事だけれど、保育の中で、先生がちがう価値感で子どもを認めていく。そして「ヘンなの」と言った子どもの、そう言いたかった気持ちを認める配慮ができる、その場では変わらなくとも、積み重ねが子どもを変えていくのではないか。変えていくというより、子ども自身の感覚が変わる一つのきっかけになるような気がする。「そういうのイヤだわ」って先生が言った時に、子どもがどう受けとめるのか気になって…。もしかして、お母さんと同じ事を先生が言ってしまったら、その子に押しつけてしまうのかかかっていた気持ちを、また閉じさせてしまうというか、言葉の表現ではなく、言っている時の心根こころねのようなものを子どもは受けとってしまう。あ、先生もお母さんと同じなんだと心を閉ざしてしまうのではないか。ただ、その子との関係が育つていけば、言った方が良いこともあるので、その時の言い方とか関係とかが

むずかしいと思う。子ども達にはまず、屈折せずにストレートに気持ちが出せるようになってほしい。出すなどいうのではなく出してほしい。ためておいたらまっすぐにせせなくなってしまうから。その所をとても細かく考えないと…。そこが、今の保育がむずかしくなったと言われる所だと思えます。

D この話はこの幼稚園にもあることだと思えます。

別に保育者でなくとも、そのいやな言葉に含まれる影響や意味を知っている大人なら、そんな事を言う子に育ってほしくないと感じると思う。ただ「仲良く」というのも、トラブルをおこさない状態をキープしろという事では友達がいらない状態をキープしろと言っているのと同じ事だと思ふ。そう思うから、子どもの気持ちや動くことが第一。気持ちが動くときには仲の良い状態やケンカの状態などいろいろあると思うが、そういう関係のついているケンカはとても意味があるのだと思う。通りすがりにイヤな言葉を言うのは、人間関係というより、心の中のモヤモヤの解消のようなものかもしれないと思う。そのとき保育者が「私はそうい

うことイヤ」と言うのは、部外者として言うのではなく、クラスの仲間として腹が立つの、という気分で行っている時にはとても意味があると思うが、親や社会のワクに対して異を説ける能力が育っていない子どもに、それを押しつけてしまう危険性も持っているのだと思う。



◇子どもの求めているものは？

D 私のクラスにも気の強い女の子がいますが、その反面気持ちの弱い所もあります。お帰りのとき「先生なんか、もう離してあげない」と私の手をひっぱり、なかなか離してくれない事がありました。私もつい言って「じゃあ私も離さない」と言って手をひっぱり返すと、幼稚園から帰れないと思ったらしく、急に泣きだしてしまっただけです。自分が受け入れてもらえない状態にすごく傷ついてしまう。相手に気づいてもらえないだけで、受け入れてもらえないような気がして、自分の存在意義さえ感じられなくなるように思えました。

A その子が「先生の手、離さない」と言ったのは、素直に「先生、手をつないで」と言えなかった気持ちがあるのであると思う。とりあえずはそういう言い方しかできなかつたけれど、表明はしたわけ。逆に言えば、表明できるようになったわけでしょ。それに対して先生の方が「じゃ私も離さない」とひっぱり返した。さっき「先生も仲間」という発言があったけど、私は先生

は先生なのではないかと思う。「先生、ずっと手をつないでいてよ」という思いを込めてひっぱり返して私の手を求めていると感じたら、私もその思いに添えてあげたいと思う。この子の気のすむまで黙って手をつないであげない。本当にわずかな力ではあっても、自分の思いと反する方向に行ってしまった。だから帰れなくなってしまうという気持ちにつながっているのかもしれない。その所を教師が何を読みとるかによって、次の行動が変わってくるのだと思う。子どもってそんなつまらない事にすごい思いをかけて、先生の気持ちを求めていることがあるんです。最近はいかにそれが多いと思います。ほんのちょっとした事で、例えばじつと顔を見るとか、洋服のボタンをいねいにかけてあげることでだけでもものすごく満足する、そういうのが今の子どもにはあまりにも多すぎると思う。家庭で、この子達は一体何をしてもらってきたのか、と思うと、きがありますね。

D 私のキャラクターから言うと、子どもと仲間感覚が

強いから、ひっぱるからひっぱり返すという対応になっちゃったけれど、もう少し大人であることを要求されていたのかな、という思いはありますね。

B 私は、結構感情をぶつけていくタイプなので、そのままですね。子どもと向き合うというのは分かるけれど、一回で何とかしようとは全然思わないし、分かってあげなくてはとも思わない。思えない。子どもに感情や気持ちをストレートに出してもらいたいと思う以上に、自分も素直に出せるかな、とラフに考えてしまうほうです。だから今の話でも、たぶん私なら「ああよしよし」とひっぱっちゃう。この子の気持ちはそうだったのかと考えるよりも「いやー、悪かったわね」という感じ。人間関係とか表現の仕方というのはつみ重ねがすごくあるので、その時々自分の出し方がマインナスの面もあるだろうし、「ごめん」とあやまる事もある。おこったときは絶対に「イヤ」とおこるし、いろんな表現や素顔があつていいのではないでしょう。子ども達の間でもイヤだ、という表現はあるだろうし、それは社会的にどうというのではなく、一緒に生

活している仲間なので、そういう言い方をしなくてももっとゆったりと過ごせる関係を作っていきたいなと思う。子どもを何とかしようというのではなく、この保育の時間をどうやって共に生活していこうか、とラフに考えています。どうやって伝えるかという当然保育者の立場があるから言うときは言っちゃうけれど、仲間づらしていてもやっぱり先生は先生、先生づらしていてもやっぱり人間、という所もある。子ども達の混乱というのは、もしかしたらそこにあるのかな、とも思ったりもしますね。

◇今どきの時代性

——今の子どもの持っている問題、それにどう対応していったらいいのか、その所はかなり主観的になるのですが、保育者それぞれの性格などもあり、共通というのはむずかしくなりますね。E先生は今の子どもをどう思いますか？

E 私は今の事しか分からないので子どもが変わってきているのかは分かりませんが、息つく暇もなく子ども

達にあちこちひっぱられ、格闘して、気がつくとも学年末という状態でした。子どもはそうしなかったのかなと思いますね。この子は一体何が言いたいんだろう、何を表現しているんだろうという場面もいっぱい。私の園ではスクールバスがあるので、その時間だけは動かせない。お帰りのときに、そこが大事とすぐ思って、そのときだけでも手をしっかり握って応えてあげても満足しないものを持っている。三歳位だと言葉で表現するのはまだまだですから行為で表す。それが屈折しているのか、裏に隠れた部分があるのか分からなのままに無我夢中で関わってきて思うのは、やっぱり満ちていない何かがある。安らげる何かを求めている。でも幼稚園に来る前まで母と子の間でそれがなかったのではと言えないんです。それはよく分からない。お母さん達のお話を伺ったりしてみても、やっぱり母子関係という所に原因があるとはいえないと思います。園で、他の先生との話題に時代性、というのはよく出ますね。刺激が強く、放つとかれてぼーっとしている時間がない子とか、入園前に母子二

人だけの密閉された世界ができていて手放すのが不安なお母さん。だから入園の頃は、子どもよりお母さんに園に慣れてもらう事に心をくだいたり、お母さんが担任の一言をすぐ待っていたり、という事がありますね。

先程の子どもの気持ちを読みとるという事について現実的な事を言うと、気持ちに伝えてあげたいと思っ
ていても、自分を磨くゆとりがない。いいわけにしてはいけないのですが、園の生活ってとても忙しいですね。他の先生とのローテーションなどもあって…。

A いつまで経っても「先生、先生」って言ってきますよね。三歳の頃は行動にはつきり出るので対応しやす
い面もあるのですが、四歳になると人数も増え、子どもも先生が大変だというのをわきまえていて、出せないでためこんでいる所がある。そして場面場面でちらちらと出す。細かい所でそれが感じとれるので、ていねいにやってあげなくてはと思うのだけれど、三歳のとき程やってあげられなかったり気づかないで通り過ぎてしまうことがある。だから出せない子は、ます

ます出さなくなるんです。

——以前はそういう事はなかったのでしょうか。

A そういう子が増えているというのと、長期にわたるという事です。こちらは一生懸命気持ちをかけたと思ってもまだたりないという感じ。そして気持ちばかりでなく遊びも要求する。自分で歩きだせるための期間がとて長くなっていますね。その出し方も、最初から要求してある程度それをすれば平気になる子、ずっとがまんしていて、ある所になって突然密に求める子、と様々。これでもかこれでもかと思えます。私としてはこれだけの人数に、私の年齢などもあり、動けない部分は精神的に補ったつもりでも、その子にとってはやっぱりたりない、もっとしてほしいというのが現実なんです。

◇子どもの少ない園では

——F先生の所はいかがでしょう。

F 私の所は子どもが減っているので皆さんには叱られるのですが、幼稚園で二十五年やってきて、子どもは

変わらないと思う。四歳は四歳児、どんな時代になっても五歳はやはり五歳ですね。ところがお母さんが変わってきている。お母さんの話すこと、幼稚園に期待すること、自分の子どもへの期待、私達がお母さんに期待するもの、お母さんへの伝え方、などはものすごく変わってきているように感じます。幼稚園での子どもの姿や実態をお話しても「先生から言われちゃった」という感じに受け止める人が多い。私は「言っちゃった」思いはしないのに。以前は、子ども達の生活する姿を通して幼稚園の保育の姿勢をお母さん達に伝えていくと、しばらくくり返すうちに、この幼稚園は一斉に何かやるわけではないし、いっぱい作ったりもしないけど、子どもの毎日の生活を大事にしているらしいということを地域のお母さん達にも伝え合っていたように思えた。だけど最近のお母さんは、自分の子が幼稚園に入っても自分は一人お友達ができればもうそれでいい。十人と友達にならなくても、誰か一人話ができる人がいればもうそれで安心。幼稚園でのいるんなでき事も二人の間の話で満足すればもうそれで



おしまい。前のお母さん達は、何か変だと思ふ事があると、懇談会などでこの事は、どういふ事なんですか、と話題に上がったが、今はでてこない。この時期に何を大事にするかという事を伝えていくとき、今は一体どう伝えたらいいのか考えてしまいます。

——お母さんのお話が出ましたが、先程の子ども自身は

変わっていないとらえているのは？

F 変わっているのかもしれないませんが、私自身の子どもに対する、幼稚園時代は子どもにとって何なのかという思いが変わっていないから変わっていないと思う。遊び方などは変わったと思うが、お母さんに伝えていくときには前と同じでは伝わらないと思うのに、子どもに対する伝え方というのはあまり変化を感じていないということですね。

——F先生は保育歴も長いので、先程からでているような先生を一人占めしたいとか、自分の中のモヤモヤを通りすがりに人にぶついたりという行為に対してはどう感じて対応していますか？

F その子はそういう表現なんだ、だからそういう子どもが多くなったとも思わない。私の地域の場合、年々子どもが減っていることが関係あると思う。ストレートに気持ちが出ないというのはお母さんに感じます。子どもにそういう子がいたとしても、卒園までの二年の間に自分は自分らしく、と変わっていく。ところがお母さんの方はなかなか変わらない。だから、お母さんと

の関わり方が今までのままではダメなのかなと思っ
ています。

◇先生にもできる限度がある

A F先生のお話伺うと、やはり人数が多すぎるとい
事なのでしょね。私の感覚では、幼稚園のような大
きな集団の教育の場ではなく、せいぜいプレイセラ
ピーの集団の関わりの中で、セラピストの先生が一人
いてケアするというような関係の中で精神的に安定で
きるというような感じの子も、たくさん入園してきて
いるように思う。そういう子に対しては相当神経を使
わなくてはいけない。安定して遊んでいるように見え
ても、その子がふっと何かを求めてきた瞬間に私がう
まく対応できないと、また、背を向けられてしまうよ
うな感じを持っている。そういう子がたくさんいる。
その上、遊ぶ事にも貪欲になった。視覚的な情報がす
ごくある中にあるので、子どもの要求してくる事がと
ても具体的だったり、細かかったり。自分で工夫する
というより、こういう物とか、こうやりたいと、はっ

きりした要求を先生に対して持つてくる。そうすると
やはり、一人の人間でやれる範囲は限られているの
で、人数が多いということはともしんどい状況で、
私これだけやっているのに：まだ足りないのという思
いになってしまいます。

——個別的なケアが求められているということですね。

F すごい子ども達がいた学年があったんです。一人は
日本人ですが入園した時は一言も発せなくて、水が大
好きで水をばちばちとばしたり、紙テープをの
ばしてしまったり、薄紙をとばしたり：。もう一人は
ロシア人の男の子で日本語が全くわからない。三人目
はミャンマーの男の子。この子はテレビを見ていたの
で日本語は少し分かるが自分からは話さない。四人目
はフィリピンの子。お母さんは日本人でお父さんは
フィリピン人なのですが、英語で話をする。しかも家
の中だけで過ごしていたので、本人は何語で話してい
いか分からないせいとか、いつもボーッとしている。そ
の四人がバラバラ。残りは七人で普通の子だけけど、一
人はボカッと手が先に出るような男の子で、もう一人

は妹のいるやさしい男の子。あとの五人は女の子で様々な子ども達のいた組でした。何と言ってもこの四人様ご一行にふりまわされていました。いろいろあったけど、あの子達はそういう状況で入園してきたのだから、私にできる事は身の安全と、言葉が通じない分、気持ちを表したり、伝えたりという面の声はかけようということでした。

一年の半分位はその子達を追いかけている状態で、他の七人様は何をしているのかというと、その中でもぶたれたりとかいろいろあるんです。私も応じられない事はしょつ中で、子ども達も先生はあつちの事で大変なんだと考えて、用のあるときにはどうすれば先生が分かってくれるか考えて行動している。そういう所はエライ!! と思って殆んど子どもにおまかせという感じでした。別に私が全部関わらなくても、私の四人への関わり方をまわりの子が見て、先生は何であそこに一生懸命に関わっているんだらうというのを分かってくれたし、そういう大人の姿を見て自分達はこうしたいこうと思ったり…。それはやはり三十人の集団で

は見えない。四人十七人。十一人だったから四人以外の子にもよく見たのでしょね。やはり人数の限度はありますね。

A 前の子ども達はそういう面があつたんです。けど今の子は先生がふり向いてくれないと幼稚園にきたくなくなっちゃう程のレベルなんです。現実二人来られなくなってしまうんです。もっと大変な女の子がいて、その子に神経をとられてしまう。三歳の時は人数が少なかったの、二人にもそれなりにできていたのですが、四歳になって人数が増えケアの程度が減ったので、三人ともとても大変になってきました。子どもにとっては深刻な事態なんです。幼稚園はそこまでやってあげなくてはいけないのかと、正直思いますね。

◇お母さんはどう受け止めているか

C その子のお母さんはどうなのですか。幼稚園や先生に求めるものは何なのかしら、それともお子さんの大変さを話さないというか、あまり感じていないので

しょうか。

A 家庭の中では親子関係の中で成立しているので、幼稚園に入れてはじめて自分の子が行動をおこして気づく。お母さん自身はそれを困った事とも大変な事とも受けとめていなかったと思う。一番大変なしゃべらない女の子の場合、家庭ではちゃんとしゃべっていたのに、お母さんとしては幼稚園にきて初めてそういう状況がおこったというのが分かった。他の二人についても今まで別に困ったことは何もなかったもので、それが普通と思っていたお母さんに、幼稚園での行動をそのままそうなのだ、と受け入れてもらうのは、今まででもずい分話しましたけれど、とても大変な事です。お母さんとの関係がむずかしいという風にも感じていて、今は幼稚園だけでどうにかなるレベルではないと思っています。でも現実には幼稚園に来ている子だから、何とかしてあげたいと思う。

F でも仕方がないでしょ、先生は一人しかいないし、三歳までは何とかきたけれど、四歳になってクラスの状況が変わってしまったから。仕方がないといったら

残酷かもしれないけど…。

◇先生を求める

A 一人はものすごくお母さんとの距離ができていないという感じが強く、幼稚園でもお母さんへと同じものを私に求めてきます。だけど、家庭ではお母さん一人に子ども二人。現実には私はそこまでしてあげられない。私なりに気持ちをはかけていますけど…。

F だけど、前に比べると、友達より先生を求めるという子どもの姿は何なのでしょうね。

A 今、極端にお母さんと離れられなくなってしまった状況ができていてという話ができましたが、そうでなくても子ども一人一人に感じますね。ちょっとしたすり傷でもいねいに手当てしてほしいとか…。

G 家庭でお母さんもすごくいねいにやってあげているのではないかしら。

A やってあげているのでしょうか。逆のように思えるけれど。ちがう事、例えば何かできるようになる事などの方が大事だと思っていて、子どもの本当にやって

もらいたい気持ちを支えてあげていない。世の中の傾向がそうなのかなという気がしますね。

◇お母さんに伝えるのはむずかしい

G 家庭の生活の中で、やりすぎたり、必要なことをやっていたりする子どもが入園してくる。お母さんは自分の子の状況が分からない。本当は親が一番分かっているけれども、親との関係をもっとつけないでほしい。子どもとの関係もそうだけれど、親との関係をもっとつけないでほしいのか。

A お母さんにそんな細かい所まで理解してもらうのはすごくむずかしいです。なかなか価値観の転換をしてもらえないから。話してもお母さんにうまく伝わるにはある程度の時間が必要で、実際にはそんなにたくさんはできません。まして、お母さんが自分なりに理解して「うちの子にはこうしなくては」と思い、こちらの思ってもみない方向に向かうのなら何もしないでもらった方が…、とも思ってしまうますね。そういうお母さんも多いですから。

F でも幼稚園でやるには限度がある。幼稚園は八時半から一時半までですから、あとの時間はやはりお母さんの方が長い。食事だって幼稚園では昼一回だけだけれど、お家では朝夕二回ある。ヒロちゃんはお弁当ポロボロこぼして、おはしで上手に食べられないみたいだから、ちょっとお母さんがそこを見てあげたらと思って話しても、お母さんは受けつけない。かえって否定されてしまう。「うちではこぼさないで普通に食べていますよ」ということだ。でも幼稚園でこんなにポロボロこぼして食べられない子が、家でおはしでこぼさないで食べるとは思えないですよね。「おうちみたいにお茶わんで食べてみる？」といういろやってみましたけれど、やっぱり食べられない。あ、お母さん、そういうのを認めるのがイヤなんだな、じゃあその事を言うのはやめよう。でも、ちがう場面でどういったらいいのだろう。「こうですよ」と言われるのはイヤらしい。入園当初から比べるとここができるようになったというような事、ウソは言えないので何かさがして…、おもちゃを一つかたづけられるようになった

ので、おうちでもほめてあげてねと言うと、「あ、そうですか」これで終わりなんです。あーこれもダメなんだ。その子を見ていると愛情がたりていないのではと思ってしまうですね。お母さんの話をきくと、「あの子の面倒を見るのめんどくさい」って言うんです。一人しか子どももないのに。だけどお弁当袋や手さげ袋は手作りで作ってくる。子どもの話はやめにして、「なんだ、めんどくさいって言ってながら、こういうのは上手なのね」と袋の作り方を教えてもらう話から入っていくようにしようと思った。子どもの方は手がかかりますよ。すごく求めているし。でもその時は目に見えなくてもしばらく経つと、表情がでてきたり、おこったり、物を投げたらやり返すようになった。いろいろ反応が変わってきて、私はそれをうれしいと思った。他の大人もヒロちゃんの変化に気づいてくれるのに、肝心なお母さんはまだ受け入れられなくて、ちょっと言えば「そんなこと言われても、うちの子みたいなのは世界中さがせばどこにでもありますよ」なんて返ってくる。どういふ風に言ったら…。今のお母さ

んとの親子関係についてふれたいと思うと、とてもむずかしいのを感じますね。子どもも変わっているのかもしれないけれど、それをどうお母さんに話していいのかわからないのか…。絶対、前と同じ関わり方ではダメなんです。

D そういふ話をきくとお母さん自身に「母としてもつと変わりなさい」という前提があるように感じてしまいますね。他人の子だからこのレベルで喜べるレベルと、生まれた時からずっと見ていると余程な事がなければ、小さな変化は見えないのでは、という感じもします。

F このお母さんの例だけでなく、一般的にお母さんと接する時に、一緒に考えていこうとするとか一方通行で切られてしまうことが多い。やはりお母さんと保育者のコミュニケーションがスムーズでないことは良くないと思うので、お母さんが変わるどうのこうのではありません、今までの言い方ではダメ。私としてはパッと切られてしまわない親と保育者の関係を作るにはどうしたらいいのか、考えてしまいます。

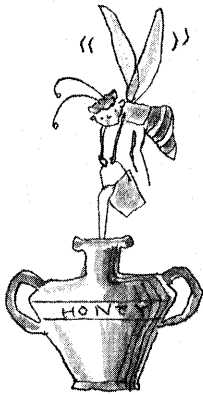
◇幼稚園が用意する？

C 私の幼稚園では一昨年から、家庭との連携をどうしたらとれるかという事についていろいろ考えてきました。それまで、お母さんとは毎日朝と帰りに顔を合わせているのに、その割には情報が伝わってこないし、こちらの思いも充分伝えきれないというジレンマがずっとありました。それでお帰りの時に毎日一人ずつ個別にお母さんと話したり、先程も言いましたように幼稚園の行事に参加してもらうことで、子ども達が気持ちをのり越えていく姿を感じとってもらったり、幼稚園での子どもたちの生活を知ってもらいたいと思っただけです。そういう機会を用意したことで、お母さんが子どもの気持ちを理解したり、伝え方のへたなお母さんがやわらかい表現ができるようになったり、その事で子ども同士の関係までうまくいって受け入れられるようになったり…。行事の多い幼稚園だ、と文句を言いなながらも、変わってきた場面が多く見られました。大変な事もたくさんありましたので、この試みがいいか悪いかは別として、親と保育者の一对一のコミュニ

ケーションも少しずつこんな話ができるようになるよ

なり、お母さん達も自然にいろんな事が感じられるようになってきたんだというのが今の実感です。

F 私達は今まで、幼稚園は子どもを保育する所だと思っ、子どもとどう関わっていいかという事を一



生懸命考えてきて、それでお母さん達に通じる部分はたくさんあったんだけど、最近どうもそこがうまくいかない時代になってきた。一対一で何かするということより、お母さん達の気持ちがあほれるというような考えがこれからの幼稚園には求められるのかしら。

C そうなんです。お母さんも本当に自分のやりたい事を探しているんです。それが見つかると、気持ち一つで、乳飲み児かかえてても出てきて一緒にやってくれるんです。そういう場が持てるという事が今のお母さんには重要で、それでまた、別の気持ちで子どもと向き合い、いい関係を作っていけるという事があるのかなと思います。

F そういうのあるかしら。個人的にお母さんと関われば関わる程、変なふうになるなら、幼稚園は幼稚園で子どもの変化を喜びながらやっていくしかないと思うたときもあり、それは少しさみしいと思いましたね。

A みんな余裕がないから、先生に何か言われると、母親が悪いと言われてるように思う。こちらはそんなつもりがなくても、お母さんは子育てで手一杯、余裕

がない。お母さん自身の子どもに対する気持ちが変わらない限り細かい事を言っても、言われた事への対応しか考えないので困りますね。

B 伝え方がむずかしいと思うのは現象を伝えてもその対応策ばかり考えてしまうから。別に、幼稚園で失敗しないようにして下さいと言っているのではなく、そういう状況をふまえた上で、気長に子どもを見ていきましょう、と言っているのに…。ケンカしないように一緒に帰るのをやめてしまうなんて!! どうして公けの場で何もしないような対策しか考えないのか。弱みを見せないんですヨ。もっといろんなものをさらけ出していいと思うんですけど、できないはできない、そこから始まっていいこう、というのですが…。

◇幼稚園の役割はどこまでか

D 今のお母さんはいろんなプレッシャーの中で過ごしているように見えて、お母さん自身が自己肯定感を持たず、安定したがつているように思えます。お母さんの事はむずかしいのだけれど、前のお母さんだったら

子どもが育つのを見ていて自分も育つちゃう部分があった。子育てで母が育つのは、学校教育の側から見ると、プラスαの部分で、もしも幼稚園がお母さんを育てていく事までするのなら、公教育は親子を育てる場になろうとしているんじゃないか。

A 現状では、積極的に揚げるのは難しいのではないでしょう。大きなのは子どもの保育だと言うから。

F 私は今までずっと保育の場にお母さんが入ってくるのには抵抗がありました。それは、幼稚園は子どもが開かれている場だから、それはしたくないという思いがあった。けど今、お話を伺っていろいろやってみようかなと思いましたね。

A お母さんに対しても保育と同じではないかと思う。一人一人状況もちがうのでお母さんに対する対応の仕方でも個別に考えていかなければならない時代なのかもしれないですね。

— 今、子どもが慣れるのに時間がかかるというのは、親が自分を出せるという感触を持ってないので、その分ひきずって長びいているのでしょうか。

E 今は親子の結びつきが強くなりすぎて、親が子どもを放っておけなくなっている。子どもは放っておかれるのがすごく不安。幼稚園が子ども主体だとすれば、子どもにとって放っておかれる唯一の場なのではないでしょうか。文化的にも社会的にも、他のものは全部管理された時代だから、もし最後の砦があるとすれば、それは幼稚園だと思います。でもその自由さ、何をしてもいい状態というのが、逆に子どもの不安を招いている所があるような気がします。

— 子どもの問題から親の問題へ話が移ってきたようですが、子どもそのものに関してどんなに頑張ってもそれだけでは解決しなくて、親が心を開くという、子どもとの関わり以上にむずかしい問題を今の保育現場はかかえているという事だと思えます。実際、親が先生に対して態度を変えると子どももおもしろい程変わってくるというのが、私のセラピ어의経験を通しての実感です。親と保育者との関係はとても大切なのですよね。

お話はまだまだ続くと思いますが、本日はここまで

にしたいと思います。長時間にわたってありがとうございます。

終

子どもも大人も、どこかで生きにくさを感じているようですね。親としては、ちょっと耳のいたい話でもありました。子どもだけでなく、大人も、わかってくれる人、受けとめてくれる人がほしいのでしよう。連携という言葉の生の姿を、これからも探っていきたいと考えています。

(田代)

*

この座談会につきまして、読者の皆様方のご意見、ご感想がございましたら、編集部までお寄せ下さい。

今回は保育者サイドのお話でしたので、是非、お母さん方からの考え、実態、ここがちがうという反論など、本音の部分のお話をお待ちしております。

(編集部)

幼児の教育

第九十三巻 第八号

(一九九四年八月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

発行 平成六年八月一日

編集兼発行人 本田和子

発行所 日本幼稚園協会

〒112 東京都文京区大塚二―一―

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108 東京都港区三田五―二―

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113 東京都文京区本駒込

六―一四―九

☎〇三―五三九五―六六〇四

振替口座 東京九―一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレイ

ベル館にお願いいたします。

☆万一、落丁・乱丁などがございましたら、おとりかえいたします。